筑波のかえる

高次脳機能障害友の会・いばらき

2023年 ～～ 春 号 ～～ 第58号

高次脳機能障害友の会・いばらき

〒305－0817
茨城県つくば市研究学園4－13－8
TEL　080－5901－9979
E-mail　kojinouibaraki@yahoo.co.jp
H.P　http://nosonshoibaraki.sunnyday.jp/

≪５８号内容一覧≫

はじめに ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １
令和４年度要望書提出 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ２
県北の広場 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ３
県南の広場 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ４
神栖の広場・栃木家族会の方をお迎えして ・・・・・・ ５
退任あいさつ（山川百合子支援センター長） ・・・・ ６
関係機関訪問
　　日立共同作業所「ふきのとう」 ・・・・・・・・・ ７
　　ソーシャルインクルーホーム結城下り松 ・・・・ ８
がんばってる人 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ９
役員会よりのお知らせ・編集後記 ・・・・・・・・・ １０

表紙の写真は、県南集会で製作した色鮮やかな手毬です。白い発泡スチロールの原型に、思い思いのちりめんの布と紐を貼り付け、素敵な手毬が出来上がりました。

波にゆられながら、手毬たちはどこに行くのでしょうか？遠くにはヤシの木も見えています。ハワイかな？タヒチかな？

下の写真は、同じく県南集会で製作をしたペン立てです。（詳しくは４ページをご覧ください。）

はじめに

桜の便りも届く今日この頃、家族会員の皆さまも元気にお過ごしのことと思います。コロナウイルス感染も収束に向かい、各規制も緩和され、さらにマスク着用の規制も緩和されましたね。そして５月８日には２類から５類への移行、これでやっと正常な日常生活に戻れますね。

県の障害福祉課との懇談会を基にして、家族会会員の皆様から寄せられた要望を取り入れた家族会の要望書を 2 月６日に県の森田障害福祉課長にお渡ししました。本年度就任された森田課長は友部の県リハビリテーションセンターが廃止され、県高次脳機能障害支援センターが新設された当時に 1 年間福祉課に在籍していて、また戻ってこられたとのことです。森田課長は「2018 年 4 月に新設された支援センターも軌道にのっているようで、その活動は高次脳機能障害当事者ならびに家族の方の助けにもなっているのではと、うれしくもあり懐かしくも思っています。要望書の内容について説明いただき十分理解しましたが再度要望書を読ませていただいて後日回答させていただきます。高橋副センター長のもとでさらに高次脳機能障害者ならびに家族の皆さんのご期待に沿えるように活動していきますのでよろしくお願いします。」と挨拶されました。

私はここ数年要望書提出に欠かさず参加させていただいています。当初の要望書提出時には、県とは何か垣根がある感じでぎこちなく、固い雰囲気だったと感じていました。しかし最近は事前に障害福祉課との懇談会を開いて要望の進捗状況を具体的に説明していただいています。その席上で、支援センターの活動状況のリアルな苦しさ、もどかしさ等が伝わってきました。また家族会としても近況報告をざっくばらんに聞いていただき、共に和気あいあいとした場となっています。その雰囲気が、そのまま要望書提出時にもかもしだされ、和やかな話し合いの場となっています。この雰囲気と県との関係を大事にしたいと思います。

県の障害福祉課と高次脳機能障害支援センターとの関係も良く、私たち家族会の要望も真摯に聞いていただき、県の障害福祉課の皆さんに実現していただいています。どんなことでもいいですから家族会の皆さんの要望、意見を寄せてください。言い続ければ必ずいつか実現すると信じています。

そろそろ、「高次脳機能障害友の会いばらき」の総会が開催されます。総会案内が家族会員の皆さんのところに届くと思います。コロナウイルス感染も収束したことですし是非とも家に閉じこもることなく、総会に顔出ししていただき、近況ならびに胸に溜まった言いたいことをはきだしてしまいましょう。役員一同でお待ちしております。（細川）

令和４年度要望書提出

２月６日、陽射しの温かい快晴の日に、今年も県庁へ要望書を提出しました。

友の会の滝沢会長、細川副会長、本田副会長の３名と、会からお願いした飯田県会議員の４名です。県からは森田障害福祉課長と渡辺副参事、高野担当者、高次脳機能障害支援センター高橋副センター長の４名に対して要望書を手渡すと共に内容をひとつひとつ説明しました。

まず友の会の滝沢会長から県や支援センターの日頃の取り組みに対して感謝を伝え、本田副会長から要望書の詳細内容を説明しました。今回は、地域支援拠点病院の拠点充実化、要支援者の福祉導入推進、親なき後の事前準備支援などの従来要望に加え、学校内で理解を得にくく声を上げられない学童当事者の支援教員の養成研修、職場や上司に誤解を受けやすい就労当事者の環境改善のための職場への事前説明体制、当事者特有の悩みを共有する心理的リハビリ（ピアサポート等）目的の公共機能の設定などを説明し要望しました。

森田障害福祉課長からは、「高次脳機能障害は事故、病気による後遺症なので、病院のケアが不可欠と思います」「家族も症状に戸惑いがあると思います」「支援センターの取組でその効果があがっていると自負しています」「今後も家族会と連携をとりながら進めて行きたいと思いますのでよろしくお願いいたします」などのコメントが有りました。

渡辺副参事からは、「秋にも友の会の皆さまとの懇談会で当事者家族の現状を聞かせて頂いており、当事者、その家族の意見さらに身近な市町村と連携をとりながら、間違いのないように施策を進めていきたい」「拠点病院の充実については粘り強くメリットなど説明をし、拠点病院を増やして行きたい」とコメントが有りました。

飯田県会議員からは、「4 年前に支援センターが発足して、その効果は大きいと思います」「県と家族会のために微力ながらお手伝いしていきたいと思います」との締めの言葉で閉会しました。

３月初旬に県から回答書が届き、その取組の状況については、秋の懇談会にて進捗を確認していきます。（本田）

県北の広場

令和５年度がスタートしました。

今年度も「県北集会」「家族の集い」を計画しています。

- **県北集会**　年６回　偶数月の日曜日に開催
  〔当事者・家族・支援者でレクリエーション等を楽しみます〕
- **家族の集い**　年６回　奇数月の金曜日に開催
  〔家族、支援者で情報交換します〕

集会でお会いしましょう！！

３つの集会が行われました。ご報告します。

令和４年度　第６回県北集会　　2月19日（日）13：30～14：30

場　所　：　水戸市福祉ボランティア会館　大研修室
内　容　：　使用済み切手整理作業
参加者　：　１０名（当事者１名、家族１名、支援者４名、学生４名）

久しぶりの方や学生さんも一緒に恒例の作業を行い、楽しい時間となりました。
写真撮影の時だけマスクをはずしました。
みなさんの笑顔も久しぶり！！☺

令和４年度　第５回家族の集い　　1月27日（金）10：00～12：00

場　所　：　水戸市福祉ボランティア会館　小研修室
参加者　：　８名（家族３名、支援者３名、県支援コーディネーター２名）

令和４年度　第６回家族の集い　　3月24日（金）10：00～12：00

場　所　：　水戸市福祉ボランティア会館　小研修室
参加者　：　７名（家族３名、支援者３名、県支援コーディネーター１名）

近況報告、情報交換をした後、２月の県北集会で整理した「使用済み切手」を水戸市社会福祉協議会に寄付をしました。これからもできることで「社会貢献」していきたいと思います

県南の広場

県南では、偶数月には家族対象の「おしゃべりサロン」、奇数月には当事者と家族ともに楽しむ県南集会が行われています。
１月は、お正月でもあり家族での用が多いことや、寒さも厳しいことから集会の開催を休むことにしました。

≪ おしゃべりサロン ≫

２月１５日（水）ふれあいセンター「ながみね」において第５回目のおしゃべりサロンを開きました。寒い時期と言うこともあり、参加者は６名でした。

久しぶりに参加された方もあり、高次脳機能障害のことやいろいろな問題点からも一時離れて、昔のことや楽しかった話などもたくさんでて、大いに盛り上がりました。「こんなおしゃべりがしたかったんだよね～」と言う声も聞かれ次回が楽しみになりました。時間に追い立てられ、心配事や当事者への心配りなど、介護者の苦しみは絶えることがありません。ましてや高次脳機能障害については、周りからの理解も本当に難しいのが現状です。友の会はそんな私たちのために作られた会です。介護者へのケアは当事者にとっても必要不可欠なものだと思います。どうぞみなさん、次回からの会にも是非ご参加ください。

≪ 第４回県南集会 ≫

３月１８日（土）ふれあいセンター「ながみね」において第４回　県南集会が行われました。サクラの便りが次々に届く中、残念ながら冷たい雨！！
はじめ、こんなにと思うほど参加希望が多かったのでしたが、当事者の体調不良や介護の必要等で、参加者は急減、６名での集会になりました。私たちが、いかに当事者の方たちに必要とされているか、よくわかります。

今回は、千代紙や牛乳パックを使ったペン立てと、ちりめん細工の飾りを作りました。両面テープで張り付けるだけなのですが、とてもきれいな作品がたくさん作れました。今回は、一つの作品に牛乳パック６個使いました。たくさんのパックが必要なので困っていたところ、カスミストアで快く引き受けて下さり、５０枚も洗って用意して下さいましたので申し添えます。ありがとうございました。（浅野）

神栖の広場

神栖市社協では、毎月「地域ネットワーク勉強会」が催されます。第２７３回は、「高次脳機能障害」を取り上げていただきました。県高次脳機能障害支援センターから２名の方が講師として来られ、「センターの活動とピアサポート」について詳しく説明していただきました。苦境に立っている当事者や家族、そして事業所の方たちに参加していただいて活路を見つけてほしいと思います。私も当事者の家族として息子の事を発表したのですが、急性期のことを思い出すと言葉に詰まり、伝えたかったことも十分にはできなかったかもしれませんが、話したことを少しご報告します。

25 年以上前でしたから、情報の無い怒りや戸惑い。家族も意識が戻ったことへの安堵。時間はかかっても以前の活発な姿に戻るだろう程度の感覚だったのが異常な行動が続き、戸惑うばかりの毎日。回復期の将来の不安、理解してもらえない苛立ちが交差する日々、中３になり私立高校への提案がありましたが現状に合わず、困っていた時に水戸高等養護学校の翌年４月開校が耳に入り受験、３年間の寮生活が始まりました。最初は寮から登校できない日が続きましたが、先生は根気よく導いてくださいました。家族も距離を置いた事で冷静に対応できるようになり、学校から得る情報で知識・出会いも広がっていきました。地域事業所の雇用で賃金を得る喜びを味わい、社会参加への自信にも繋がりました。その後、家族会の発足を新聞で知り参加。神栖での「考える会」への参加等視野が広がり同じ苦しさに直面して悩んでいる人たちと出会い気持ちが楽になってきました。今回、この発表の機会に今まで目を逸らせていた書類やノートを改めて見ると、岐路に立たされた時々に大きな出会いに導かれて今があると気づきました。息子の場合自転車で移動し就労しているので、外見では分からない友人たちが多いですが、今回の「社協ニュース」を見て「高次脳機能障害」を背負って歩んでいることに気づいて頂ければ本人の励みになり幸いと思います。　　（御所脇）

《神栖集会の報告》

１月	相談者１名	会員４名	社協１名	支援センター（沼尻ＣＮ）
２月	相談者１名	会員３名	社協１名	まつぼっくり２名
３月	相談者１名	会員３名	社協１名	支援センター（高松ＣＮ）

「とちぎ高次脳機能障害友の会」との懇談会

３月 14 日（火）、土浦市新治地区公民館に「とちぎ高次脳機能障害友の会」会長の中野和子さんと会員の徳元昌子さんがお越しになり、当会役員 10 名とで今の活動の様子や今後についてなど、お互いの家族会について様々な意見交換をしました。

５ 年程前から「交通事故被害者家族ネットワーク」のお声掛けで、北関東（群馬・栃木・埼玉・茨城）の家族会の会長が年に一回集まって、色々な情報交換をしています。コロナ禍になり中野さんにお会いするのは久しぶりのことでしたが、今年度で９年続けてこられた会長をご退任されるとのこと。次期会長になられる徳元さんへ引継ぐにあたって「他の家族会の活動も参考にさせて頂いて頑張ってほしい」とのお気持ちから、今回の懇談会になりました。

「茨城県の家族会は、役員同士の意見が活発で素晴らしいですね！」とお褒めの言葉。私も「その通りだな！」と思っています。活発な意見からアイデアも浮かび、活動にも繋がります。役員の高齢化などの問題もなきにしもあらずですが新しい年度を迎え、なお一層今年度も頑張って参ります。

今回の懇談会を終えて、改めて家族会の役割や意義を考えました。会員の皆様も、ご意見やアイデアなどございましたら何時でもご連絡ください。皆様からのお声が何よりも励みになりますので今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。（滝沢）

‹‹‹‹‹‹‹　退　任　に　あ　た　っ　て　›››››››

茨城県立医療大学　医科学センター　付属病院（精神科医）
茨城県高次脳機能障害支援センター　センター長　山川百合子

振り返ってみると、茨城県立医療大学には１９９８年（平成１０年）に付属病院の非常勤医として６年間、そのまま２００４年（平成１６年）大学の教員となり１９年間、合計２５年茨城県立医療大学にいたことになります。

高次脳機能障害という言葉は、私の受けた医学教育ではほとんど聞いたことのない言葉だったので、精神科病院で担当していた頭部外傷の若い患者さんを高次脳機能障害には結びつけることはありませんでした。高次脳機能障害に関わるきっかけは、大学教員になりたての頃に、当時同僚だった作業療法学科の鈴木孝治先生に、高次脳機能障害の家族会の立ち上げに誘われたことでした。最初はあまりなじみのない高次脳機能障害に戸惑っていましたが、鈴木先生には「精神科医は大事な役割ですよ」と励まされました。

確かに付属病院で高次脳機能障害と関わると、退院後の精神保健福祉サービスの制度（精神保健福祉手帳や精神障害年金など）や成年後見制度など精神科医が貢献できることがたくさんあることがわかりました。これらの制度の利用により、当事者も家族も前向きになっていくことを実感しました。また高次脳機能障害は特に場によって症状の出方が変わるのが特徴なので、様々な職種、様々な立場のスタッフと一緒に症状の軽くなる環境調整について話し合うことが何よりも重要なことがわかりました。

このように高次脳機能障害に関わったことで、「制度による精神療法」の考え方や「多職種連携」について多くの経験を積み重ねることができました。また精神科医はフォーマルな精神医療への入り口に立つと言われています。したがって高次脳機能障害をはじめ広く、そして新しい知識を常に得ていないと支援自体が始まらないということも痛感しました。

最後の２年間は茨城県高次脳機能障害支援センター長を務めましたが、スタッフに支えられて何とか終えることができました。今後は同センターの嘱託医として関わる予定です。

当事者、家族の皆様、長い間本当にありがとうございました。心より感謝申し上げます。

これからもどうぞよろしくお願いいたします。

関係機関訪問 ⑳

日立共同作業所ふきのとう

住所　日立市桜川町１－７－２
電話　０２９４－３８－０４７６

◇６号国道の「常陸多賀駅入口」交差点から少し入った所に「ふきのとう」はありました。入り口には小さな無人スタンドがあり、メンバーさんの手作りの品や畑で収穫された作物などが並んでいました。
今回のお話は、理事長の深谷貞榮さんと事務長の武石和之さんにうかがいました。

◎「ふきのとう」は、昭和６１年、家族が結集して「病院退院後の当事者の居場所を作る」ことを目的として設立されました。当初は大いに期待されましたが、当時は国の支援もなく、病院や企業、親の会等の支援を受けながらも資金不足で経営が困難な時期もありました。2011 年の震災を機に、国の支援を受け、NPO 法人として再スタートを切りました。2022 年からは就労継続支援 B 型作業所として運営をしています。

◎作業所は、メンバー（当事者）の居場所でもあり、社会復帰を目指す場所であることを念頭に、みんなで作り上げてきました。みんなで決めたルールは３つ。**①あいさつ②認め合い、助け合う③障害を隠さない**というものです。金子みすゞの言葉「みんな違ってみんないい」のような考え方が根底に流れているようです。

◎スタッフとしては「人格を尊重する」ことを基本としています。「ふきのとう」では**「決まりがない」「命令をしない」「叱責をしない」**を目指し、日々の活動を行っています。朝夕のミーティングと月１回のスタッフ会議を定例とし、会議では情報交換はもちろん事例研修や運営研究などもおこなっています。

深谷理事長さんは終始ニコニコとした笑顔の方で、紺の作務衣がとてもよくお似合いでした。明るい作業場では、通所者の方々が、自分たちが選んだ音楽を聞きながら、和気あいあいと作業をしていました。立ち上げ当時から理事長さんが発行されている手書きの「機関誌」を見せていただきました。施設の中や、スタッフの方、通所者の方々の様子からはもちろん、機関誌の文章からも理事長さんの熱い思いはひしひしと伝わってきました。そんな理事長さんを武石事務長さんは、片腕としてしっかりと支えておられるようでした。驚いたのは、「家族会」もできていて、それが定例化していたことです。

関係機関訪問 ㉑

グループホーム「ソーシャルインクルーホーム結城下り松」

住所　結城市下り松６丁目５番７
電話　０２９６－４５－８６９０

◇栃木県との県境にある結城市は「織物の町」として知られています。今回お訪ねした「ソーシャルインクルーホーム結城」は、旧市街地からは少し離れた国道傍にありました。木造２階建ての新しくて大きな建物でした。日当たりのよい玄関わきにテラスがあり、そこでのんびりくつろぐ入所者の方が、私たちに明るく声をかけてくれました。お話をお聞きしたのは、管理者の神尾有飛さんです。お若いのにしっかりとした好青年でした。

◎このグループホームを運営するのは東京に本社のある「ソーシャルインクルー株式会社」です。設立されてまだ６年の新しい会社ですが、現在日本全国に１７０～１８０のグループホームを展開しています。茨城県には現在６か所あり、間もなく土浦、下妻、稲敷にもできる予定です。結城は開所してまだ１年の新しいホームです。

◎定員は２０名で、現在満室となっております。入所者の内訳としては、完全に自立している方は１名のみで、あとは何らかの介助が必要な方々です。高次脳機能障害をもつ方は４名だそうです。ここは医療的ケアが必要な方も入所できるのが特徴で、現在、インスリンを服用する方や、胃ろうの方、人工肛門の方などもケアを受けながら入所しています。就労についている方は、送迎バスで B 型作業所に通っている方が多いそうです。年齢層としては 50 代が大半で、40 代 60 代の方も入所しています。

◎職員は 25 名で、そのうち看護師が５名です。勤務は２交代制で、夜勤は４名で行っています。看護師とは 24 時間いつでも連絡が取れる体制になっています。

多くのグループホームが、入居の条件として「ある程度自立していること」と掲げている所が多いですが、ここはかなり重度の障害がある方でも入居できるということを聞き、取材させていただきました。企業理念が「住まいで困っている障がい者が「０ゼロ」の社会を作る」ということで、結城も重度の方も快適に日常生活が送れるような工夫がされていました。神尾さんも、入所している方や職員の方々と積極的にコミュニケーションをとられ、輪を大切にされている様子が見られました。写真も一人では困ると言われ、傍にいた職員さんを誘いました。

がんばっている人㉑

“父親思い・・翼さん”

神栖市　石井　翼さん

翼さんとお話をしたのは、当事者会に参加する前の土浦駅構内のコーヒーショップでした。心配されたお父さんも同席してくださいました。じっくりとお話をするのは初めてでしたので、こちらも少し構えていたと思いますが、とても気さくで話しやすい方でした。

◇翼さんは、24 歳の時、軽乗用車を運転していて大型トレーラーとの交通事故にあいました。車は大破し、翼さんも生死の境をさまよいました。長い闘病生活を経て幸い体には麻痺が残りませんでしたが、重い高次脳機能障害が後遺症として残りました。

◇翼さんは３人姉弟の末っ子として生まれ、ご両親の愛情をたっぷり受けて育ちました。お姉さんは近くに嫁いでいて、甥御さんを連れて時々様子を見に来られるそうです。お母さんは翼さんが32 歳の時に病気で亡くなられたので、今はお父さんとお兄さんと翼さん３人で暮らしています。お兄さんは仕事が忙しく、翼さんはお父さんと二人で行動することが多いそうです。

◇平日はいろいろな活動をしています。週２日は、牛堀市にある B 型作業所「ポプラ」に通って、軽作業を行っています。あと２日は、社協で運営するデイケア「青空」で、創作活動や季節の行事・調理などをして通所している仲間たちと過ごします。残りの１日は、長い間通院している「鹿島病院」でリハビリを行い、月２日は家族会でもお世話になっている守谷市の笹島先生のカウンセリングを受けています。土日はお父さんと買い物に行ったり、ドライブをしたり、近くの公園をウオーキングをしたりと、父子で楽しい時間を過ごしています。週２日の夕方には、精神障害に特化した訪問看護を受けるようにもなりました。

旅行好きなご両親は、翼さんが幼かったころから、よく家族旅行に連れて行ってくれました。お母様が亡くなられてからも、お父さんは翼さんを色々なところに連れて行ってくれました。そんなお父さんを、翼さんはとても頼りにしながら、その一方、体調を気遣ってもいます。翼さんの言葉の端々からそれが感じられました。

受傷前の翼さんは、和食の料理人を目指して、東京の有名な料理専門学校に通っていました。そんな矢先の事故でした。今も一番好きなのは「和食」と、目を細めます。私が飲み終わったコーヒーカップを、さり気なく片付けてくれた翼さん。お父さんは心配されていましたが、きっと大丈夫ですよ。安心してください。

お知らせ

今後の行事予定（４月～７月）

◇家族会交流室		★４月１４日(金)	★5月12日(金)	★6月　９日(金)
◇県　北　地　区	県北集会	★４月１６日(日)	★６月１８日(日)	
	家族の集い	★５月２８日(金)	★７月２１日(金)	
◇神　栖　地　区	神栖集会	★４月２６日(水)	★5月24日(水)	★6月28日(水)
◇県　南　地　区	県南集会	★７月中旬		
	おしゃべりサロン		★４月２６日(水)	
◇当　事　者　会		★５月未定		
◇役　　員　　会		★４月１８日(火)	★６月２０日	
◇令和５年度総会		★５月２８日(日)		

役員会報告

１月１７日(火)
(1) 各集会、交流室、当事者会等についての報告
(2) 茨城県リハビリ講習会について
(3) 県との懇談会、要望書提出について
(4) 勉強会（カウンセリング）について

３月１４日(火)
(1) 各種集会、交流室、当事者会、広報誌について
(2) ホームページについて
(3) 総会について

交流室からの報告

１月１３日　相談者なし　会員５名
支援センター ⇒なし
２月１０日　雪のため中止（電話相談３件）
３月１０日　相談者１名　会員５名
支援センター⇒沼尻 CN

編集後記

「ふきのとう」の理事長さんたちのお話を伺ったとき、最初にカフカの「変身」のお話しをお聞きしました。私は恥ずかしながら読んだことがなく、理事長さんが力説される意味が理解できませんでした。後日、ネットで調べてみて（こんな調べ方はまずいですね）「どんな人間も排除されるべきではない」ということだったのかな？と、考えました。「ふきのとう」で感じた温かさは、そんな考え方が根底にあって、スタッフやメンバーが垣根を越えて人としてつながっているからだろうと思えました。一事業所に「家族会」ができていることにも驚きでした。そんな家族会があちこちにできることを願いたいです。（カフカの「変身」もきちんと読まなくては・・・）（石）